

<報道発表資料>

令和7年12月12日

京都市総合企画局市長公室秘書担当

坂口志文氏、北川進氏の京都市名誉市民の内定について

この度、坂口志文氏（京都大学名誉教授、大阪大学特別栄誉教授）及び北川進氏（京都大学理事・副学長、高等研究院特別教授）に対し、これまでの御功績を称え、京都市名誉市民の称号をお贈りすることが内定しましたので、お知らせいたします。

1 名誉市民内定者

氏名（敬称略）	役職
坂口 志文	京都大学名誉教授 大阪大学特別栄誉教授
北川 進	京都大学理事・副学長、 高等研究院特別教授

2 略歴、功績

別紙のとおり。

3 今後の予定

令和8年2月市会において同意を得たうえで、2月16日（月）午後2時から市会議場で表彰式を執り行う予定です。

【参考】

■京都市名誉市民表彰条例（昭和28年度施行）抜粋

第1条 本市市民又は本市に縁故の深い者で、公共の福祉を増進し、又は学術技芸の進展に寄与し、以ってひろく社会の進歩発展に貢献し、市民の尊敬の的と仰がれる者には、この条例によって、京都市名誉市民の称号を贈りこれを表彰する。

<お問合せ先>

京都市総合企画局市長公室秘書担当

電話：075－222－3066

さかぐち しもん
坂口 志文 氏

昭和26年1月19日生



©大阪大学

略 歴

昭和51年3月 京都大学医学部医学科卒業

昭和52年10月から

愛知県癌センター研究所実験病理部門研究生

昭和55年3月まで

昭和56年10月から

京都大学医学部免疫研究施設及び附属病院輸血部医員

昭和58年8月まで

昭和58年9月から

ジョンスホプキンス大学卒業後研究員

昭和62年6月まで

昭和58年11月 京都大学大学院医学研究科博士号取得

昭和62年7月から

スタンフォード大学客員研究員

平成元年6月まで

平成元年7月から

スクリプス研究所免疫学部助教授

平成3年6月まで

平成3年11月から

カリフォルニア大学サンディエゴ校客員助教授

平成4年6月まで

平成4年3月から

新技術事業団「さきがけ研究21」専任研究員

平成6年12月まで

平成7年4月から

東京都老人総合研究所免疫病理部門部門長

平成11年1月まで

平成11年2月から

京都大学再生医科学研究所生体機能調節学分野教授

平成23年3月まで

平成19年10月から

京都大学再生医科学研究所所長

平成23年3月まで

平成23年4月から

大阪大学免疫学フロンティア研究センター実験免疫学教授

平成28年3月まで

平成25年7月から

大阪大学特別教授

平成28年3月まで

平成28年4月から

京都大学名誉教授、大阪大学名誉教授

現在に至る

平成28年4月から

大阪大学免疫学フロンティア研究センター実験免疫学
特任教授（常勤）

令和7年3月まで

平成29年4月から

大阪大学栄誉教授

令和7年3月まで

令和7年4月から

大阪大学免疫学フロンティア研究センター実験免疫学
特任教授

令和7年11月まで

令和7年10月から

大阪大学特別栄誉教授

現在に至る

令和7年12月から

大阪大学免疫学フロンティア研究センター実験免疫学
特任教授（常勤）（現職）

現在に至る

受賞歴と栄誉

昭和61年	ルシル・P・マーキー生物医学賞
平成15年	持田記念学術賞
平成16年	ウィリアム・コーリー賞
平成17年	武田医学賞
平成17年	高峰記念三共賞
平成19年	文部科学大臣表彰科学技術賞
平成20年	上原賞
平成20年	慶応医学賞
平成21年	紫綬褒章
平成24年	朝日賞
平成24年	日本学士院賞
平成24年	米国科学アカデミー 外国人会員
平成27年	マハーシ・ススルタ賞
平成27年	中日文化賞
平成27年	トムソン・ロイター引用栄誉賞
平成27年	ガードナー国際賞
平成27年	吹田市長賞
平成29年	クラフォード賞
平成29年	文化功労者
平成30年	食創会「安藤百福賞」大賞
令和元年	バーミンガム大学名誉博士
令和元年	ドイツ免疫学会賞
令和元年	山田和彦賞
令和元年	文化勲章
令和2年	パウル・エールリヒ&ルートヴィヒ・ダルムシュテッター賞
令和2年	科学功績賞（世界アレルギー機構）
令和2年	ロベルト・コッホ賞
令和2年	日本内分泌学会マイスター賞
令和5年	デブレツェン分子医学賞
令和6年	ガーネット免疫グロブリン賞
令和7年	ノーベル生理学・医学賞
令和7年	吹田市長特別賞
令和7年	AAI優秀フェロー

御功績

氏は、免疫学の分野で、体の中に侵入する外敵から体を守るはずの免疫が、誤って自分の体を攻撃することで起きる病気の仕組みの解明に取り組み、その中で過剰な免疫反応を抑える細胞（制御性 T 細胞）を発見した功績によりノーベル生理学・医学賞を受賞。さらに、制御性 T 細胞の数や活性を制御することで、がんに対する免疫を強められることや、逆に、臓器移植に伴う拒絶反応を抑える効果があることなどを明らかにした功績は誠に顕著である。

また、京都大学再生医科学研究所所長、大阪大学免疫学フロンティア研究センター教授をはじめ様々な要職を歴任され、現在も京都大学名誉教授、大阪大学特別栄誉教授として、我が国の科学技術の発展に多大な貢献をされている。

きたがわ すすむ
北川 進 氏

昭和26年7月4日生



©京都大学高等研究院

略 歴

昭和49年3月	京都大学工学部卒業
昭和51年3月	京都大学大学院工学研究科修士課程石油化学専攻修了
昭和54年7月	京都大学大学院工学研究科博士課程石油化学専攻修了
昭和54年4月から	近畿大学理工学部助手
昭和58年3月まで	
昭和58年4月から	近畿大学理工学部講師
昭和63年3月まで	
昭和63年4月から	近畿大学理工学部助教授
平成4年3月まで	
平成4年4月から	東京都立大学理学部教授
平成10年5月まで	
平成10年6月から	京都大学大学院工学研究科教授
平成19年9月まで	
平成19年4月から	京都大学工学部工業化学科長
平成20年3月まで	
平成19年10月から	京都大学物質－細胞統合システム拠点教授
平成28年3月まで	
平成25年1月から	京都大学物質－細胞統合システム拠点長
平成29年3月まで	

平成28年4月から

京都大学工業化学系

(物質－細胞統合システム拠点) 教授

平成29年3月まで

平成29年4月から

京都大学名誉教授

現在に至る

平成29年4月から

京都大学高等研究院特別教授

現在に至る

平成29年4月から

京都大学高等研究院物質－細胞統合システム拠点長

令和5年3月まで

令和6年4月から

京都大学理事・副学長

現在に至る

令和7年1月から

京都大学総合研究推進本部本部長

現在に至る

受賞歴と栄誉

平成14年 第19回日本化学会学術賞

平成19年 Earl L. Muettterties Memorial Lectureship (University of California, Berkeley)

平成19年 平成19年度錯体化学会賞

平成20年 Humboldt Research Award, Germany

平成21年 第61回日本化学会賞

平成22年 トムソン・ロイター引用栄誉賞

平成23年 平成23年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞研究部門

平成23年 The Honorary Fellowship of the Council of the Chemical Research Society of India (CRSI)

平成23年 紫綬褒章

平成23年 第22期日本学術会議会員

平成23年 京都新聞大賞文化学術賞

平成25年	平成25年度京都大学孜孜賞
平成25年	The fellow of the UK Royal Society of Chemistry (RSC)
平成25年	第10回江崎玲於奈賞
平成25年	The RSC de Gennes Prize
平成26年	2014 Thomson Reuters Highly Cited Researchers
平成27年	2015 Thomson Reuters Highly Cited Researchers
平成27年	マルコ・ポーロ イタリア科学賞
平成28年	日本学士院賞
平成28年	2016 Clarivate Analytics Highly Cited Researcher
平成28年	2016 Fred Basolo Medal for Outstanding Research in Inorganic Chemistry
平成28年	1 st Air Liquide Awards on Essential Small Molecules 2016
平成29年	第58回藤原賞
平成29年	2017 Clarivate Analytics Highly Cited Researchers
平成29年	The 2017 Chemistry for the Future Solvay Prize
平成29年	日本化学会名誉会員
平成30年	Technical University Munich名誉博士号
平成30年	2018 Clarivate Analytics Highly Cited Researchers
平成31年	フランス化学会グランプリ
令和元年	エマニュエル・メルクレクチャーシップ賞
令和元年	2019 Clarivate Analytics Highly Cited Researchers
令和元年	日本学士院会員
令和2年	2020 Clarivate Analytics Highly Cited Researchers
令和3年	錯体化学会名誉会員
令和5年	英国王立協会外国人会員
令和7年	京都府文化賞特別功労賞
令和7年	ノーベル化学賞
令和7年	文化勲章・文化功労者

御功績

氏は、金属イオンと有機化合物との結合反応（配位結合）を利用することで、ナノメートルサイズの規則的な孔を無数に有する新しいタイプの多孔性材料（多孔性金属錯体: MOF）の開発を行った功績によりノーベル化学賞を受賞。また、材料の細孔中に気体を選択的に、大量に取り込むことができることを1997年に世界で初めて立証し、これを契機としてMOFによる水素や天然ガスの大量吸蔵を行う研究が世界中で行われており、その功績は誠に顕著である。

また、京都大学理事・副学長、高等研究院特別教授をはじめ様々な要職を歴任され、我が国の科学技術の発展に多大な貢献をされている。